

1 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元は、四万十川の抱える環境問題に目を向け、自分達なりに川の保全を行うための方法を考え、多くの人に発信することで、郷土の宝である四万十川を守ろうとする活動である。

校区を流れる四万十川は、上流に大規模なダムや護岸された河原もなく、昔ながらの原風景が残り、「日本最後の清流」として全国的にも有名な河川である。毎年多くの観光客も訪れ、名物の沈下橋を含めた景観、屋形船やカヌーなどの体験、天然ウナギ、青のり、アユや川エビといった食でも訪れた人を満足させている。また、校区（具同地区）は、四万十川から生活水を得るなど、生活の面でも多くの恩恵を受けている。本校児童にとっても「春の遠足」や「マラソン大会」など、四季を通して大切な活動の場、集い楽しみの場になっている。しかし近年では、アユやウナギなどの漁獲量の減少、アオミドロが大量発生することによって引き起こされる水質悪化、外来種による被害など多くの問題を抱えている。

児童は1学期、「アユの放流体験」「屋形船体験」「水辺の楽校」「水生生物調査」などの体験を行った。実際に体験して得た情報や感覚は、身近な存在である四万十川への興味関心を高め、「四万十川を多くの人に伝えたい」「四万十川を大切にしたい」という思いの原動力につながっている。また、そのような思いを持てたことが、四万十川の保全について考える際、自分ごととして主体的に取り組む姿へとつながるのではないかと考える。友だちや地域の人、専門的な知識を持つ人と協働的な思いを持って学習を進め、自分達の考えを多くの人に発信し、「四万十川をいつまでも大切にしよう。」という思いを持つことで、今後は四万十川以外の身近な地域の自然、文化、行事などにも興味・関心を持ちながら生活を送ることができるのではないかと考える。

(2) 育てようとする資質・能力及び態度について

本単元を通して特に大切にしたいことは、C「学びに向かう人間性等」の「②意思決定し行動する力」であり、目指す児童の姿として、具体的には「四万十川の保全に向けて、アイデアを出し合いながら自分たちにできることを考える。」と設定している。

上記の事柄を達成するために、体験活動で経験したことや、インタビュー活動で聞いて分かった事実をもとに四万十川のかかえる問題について考える際、「いかに自分ごととしてとらえ、本気になって考えることができるか。」といった学習の根底にある主題を大切にしていきたい。また、グループや全体の話し合いで、児童一人ひとりが自分の意見を持てるよう、情報収集を行った後の整理・分析場面では十分に時間を確保しながら共通理解を図っていく。

このように実際に体験することで多くの情報を獲得し、整理・分析場面で一人ひとりが自分の考えを持ち、話し合い活動へと展開することで、多様な考えが出され、児童にとっては多面的なものごとを見る力が育つと考えられる。また、充実した話し合い活動が展開できるとともに、友だちの考えに流されるのではなく、児童一人ひとりが自分の意思を示しながら、思いを持って主体的に学習に取り組むことができると考える。

(3) 児童について

子ども達は第3学年で、社会科の校区探検で見つけた「具同じまん」の1つである「トンボ王国」について、その魅力を地域住民にPRしていく活動を行った。PRする方法としては「ガイド」を選択し、「分かりやすく伝えるためにはどうすればよいのか?」という疑問について旅行添乗員の方に話を聞くことや、中学生を相手にリハーサルを行い、アドバイスをもとに修正を行うなど、多くの人とのかかわりながら学習を展開することで、相手意識を持ちガイドができるようになった。また、本番でガイドする様子がテレビや新聞で取り上げられたり、ガイドを行った地域の人に感謝の言葉をかけていただいたりしたことから、自分たちの活動に自信を持つとともに、達成感を味わうことができ、「もっと地域のよさを伝えていきたい」という意欲を高めることにもつながっている。

4年生の1学期には、四万十川での体験活動やインタビュー活動を通して四万十川の魅力を実感するとともに、「四万十川はきれいな川なのか?」という疑問について、実際に体験して分かったことや聞いて分かった事実と結び付けながら話し合いを行うことができた。実際に体験を行ったことで、話し合いをする際には、根拠を示しながら自分ごととして議論することもできている。また、友だちの意見を受けて自分の考えを発表することなど、友だちの多様な表現を認めたりすることもできるようになってきている。

(4) 指導について

①体験を重ねることで学習材に対する興味・関心を高め児童の主体性を高める

四万十川は観光客も多く全国的にも有名な川であるが、実際に四万十川で様々な体験をした経験のある児童は少ない。そこで、総合的な学習の時間で四万十川を学習材として取り扱うにあたって、1学期まずは「アユの放流体験」「水辺の楽校」「屋形船体験」「水生生物調査」など多くの体験学習を設定した。実際に体験することで四万十川の魅力を感じ取ることができ、そこから生まれた疑問や課題を解決することが、児童主体の学習につながると考える。また、クラスの話合い場面において、経験したことを自分の考えの根拠として話すことができるようになり、より深い話し合い活動が展開できるとともに、児童一人ひとりが自分ごととして学習に向かうことができると考える。

②四万十川の現状について多面的な視点から考える

四万十川の現状について考える視点として、自分たちが体験を通して実感した四万十川の「今の様子」、インタビュー活動や過去の資料から分かる「昔から今を比べた様子」、「他の川と四万十川を比べた様子」などが考えられる。また、そこから分かる事実として、例えば「昔の四万十川ではたくさんのアユやウナギがいたが、今の四万十川ではその数が減ってきている」ということがあげられる。そうすると「なぜ、ウナギやアユの数が減ってきているのか?」という疑問が生まれ、新たな課題設定へとつながっていくのである。このように多面的な視点から考えたり、比較したりすることを通して、物事を深く考えたり、新たな学習へと展開することができる。と考える。

③情報を可視化し整理・分析をおこなう

1学期のまとめとして、児童一人ひとりが新聞づくりを行った。その際、いままでの体験活動やインタビュー活動で得た情報を「フィッシュボーン図」に書き込むことで、自分の頭にある情報を可視化し、整理・分析をすることができた。そして、それをもとにすることでスムーズに新聞にまとめを行うことができた。このように自分の持つ情報を、可視化し整理することがスムーズなまとめへとつながったことから、全体の話合い場面においても児童の意見や考えを構造的に板書することで、話し合いの視点を明確にし、板書をひとつのツールとして児童のより深い学びへと繋げたい。

2 単元の目標

- 四万十川の透明度が低下していることには、人工林の手入れ不足や耕作放棄、シカの食害、ダムの影響など様々なことが影響していることに気付く。(知識及び技能)
- 四万十川の保全に向けての取り組みについて、体験活動やインタビュー活動、クラスでの話し合い活動でまとめた内容を地域の人や観光客など多くの人に発信することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 四万十川に親しみ、愛着を持つことで、四万十川の抱える問題を自分ごととしてとらえ、専門家や友だちと協同して、課題の解決に向けて取り組むことができる。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

資質能力	育てたい力	目指す子どもの姿
A 知識及び技能	①各教科で習得した知識及び技能を生かす力	ア 観光客や漁獲量のグラフを読み取り、比較することで四万十川の抱える問題について考えることができる。
	②総合的な学習で獲得する知識及び技能	ア 川の小さな生き物がアユや鳥などの大きな生き物の生活を支えていることに気付く。 イ 四万十川の透明度が低下していることには、人工林の手入れ不足や耕作放棄、シカの食害、ダムの影響など様々なことが影響していることに気付く。
B 思考力・判断力・表現力等	①課題を設定する力	ア 四万十川での体験活動や専門家へのインタビュー活動で得た情報をもとに「みんなの宝 四万十川」の課題を設定している。
	②情報を収集する力	ア 四万十川のよさや美しさについて、体験活動を通して実感することができる。 イ 専門家からインタビュー活動を通して、課題に合わせた情報を収集することができる。
	③整理・分析する力	ア 体験活動やインタビュー活動で集めた情報をカードやグラフ化、思考ツールを使い可視化することで、共通点を整理している。 イ 四万十川を多くの人に効果的に発信する方法について話し合い、これまでの経験や友だちから出た意見を根拠としながら、最善の方法を選んでいる。
	④まとめ・表現する力	ア 「四万十川はきれいな川といえるか？」という課題について、体験活動等で集めた情報を分析し、クラス全体で共通理解をしたことについて、分かりやすく新聞等にまとめることができる。
C 学びに向かう力・人間性等	①自分自身を理解し生き方を考える力	ア 四万十川がよごれてきている原因は、自分たちの生活に関係があるのではないかと考えようとしている。
	②意志決定し行動する力	ア 四万十川の保全に向けて、アイデアを出し合いながら自分たちにできることを考えている。
	③社会(人)と関わり合う力	ア 地域の人や専門家の人にインタビュー活動を行い、課題や疑問の解決を図ろうとしている。 イ 友だちと協力して課題を解決しようとしている。 イ 四万十川について自分たちが学習したことを、地域の人や観光客など多くの人に発信することができる。

4 単元計画（全70時間）

学 習 活 動	・子どもの問い・思考	評価規準
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">四万十川について考えよう。（5時間）</div>		
<p>○アユの放流体験を行い、自分たちの生活と四万十川の繋がりについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のすぐ近くの四万十川には、たくさんのアユが住んでいるんだね。 ・アユが住む川はきれいな川と聞いたことがあるから四万十川はきれいな川なんだ。 ・夏に四万十川で遊んだことがあるけど、水もきれいで気持ちよかった。 ・全国的にも有名で観光客もたくさん来ているね。 	B①—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">四万十川の魅力を感じよう。（15時間）</div>		
<p>○四万十川の魅力について、「水辺の楽校」「屋形船体験」等の体験活動や専門家へのインタビュー活動、四万十川に関する資料を読むことで感じとる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川には230種をこえる生き物が生息しているんだね。 ・四万十川の周りには自然がいっぱいでたくさんの動物もいる。 ・水は透き通っていて、きれいだった。 ・沈下橋がたくさんあって、とてもきれいだった。 ・ころばし漁では、手長エビやウナギなどがたくさん捕れていた。 ・けれど、昔はもっとたくさんの生き物がいたと言っていたな。 ・ウナギが絶滅危惧種になったとも言っていたよ。 	B②—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">四万十川を調べよう。（7時間）</div>		
<p>○体験活動やインタビュー活動を通して経験したり、聞いたりして得た情報をもとに、四万十川について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川のよさは、人工的なダムや堤防がなく、自然がそのまま残っているところや、カレンダーにできそうなきれいな景色が見られるところだね。 ・けれど、年々水質が悪くなってきていると船頭さんやトンボ王国の杉村さんは言っていたよ。 	B②—イ
<p>○四万十川の水質について、「水生生物調査」で詳しく調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな水に住む水生生物が多くいたから、四万十川はきれいな川と言うことができるんじゃないかな。 ・pHの数値もきれいな水と言えたね。 	A②—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">今と昔の四万十川を比較することで、四万十川の現状を知ろう。（3時間）</div>		
<p>○昔の四万十川と、今の四万十川について、インタビュー活動等で得た情報を、比較することで、四万十川の現状について考えを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ウナギやアユはたくさん取れて、有名だったけど今では貴重なものになってきている。 ・絶滅した生き物もいて、種類が減ってきている。 ・四万十川の地形も変化しているようだね。 	
<p>○それぞれの様子について、フィッシュボーン図に整理し分析を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今でも十分きれいな川だけど、昔はもっときれいな川だったんだね。 	B③—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">四万十川についてわかったことを新聞にまとめよう。（5時間）</div>		
<p>○フィッシュボーン図にまとめた四万十川の様子を参考に、新聞にまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語で学習したことを思い出しながら、見出しや写真などを工夫して仕上げよう。 	B④—ア

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 四万十川の魅力を再確認しよう。(2時間) </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○水質や観光客数等について、他の川と比較することで四万十川の魅力について再度確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川は他の川に比べて景色や水質もきれいだ。 ・観光客もたくさんいて、外国の人もよく見るよ。 ・けど実際には、水質が年々悪くなってきているという問題点があったね。 ・このままでは、いけないんじゃないかな。 	A①—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 四万十川について地域の人の考えを知ろう。(5時間) </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○四万十川のかかえる問題が知られているのかという疑問を持つ。 ○四万十川についての認識や、保全についてどのような意識を持っているのか、地域の人にインタビューを行う。 ○インタビュー結果を整理・分析し、課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四万十川について地域の人はどう思っているのだろう。 ・四万十川は昔と比べると生き物が減ったり、水質が悪くなっているということを地域に住む人は知っているのかインタビューしてみよう。 ・四万十川の水質が悪くなっているということを知らない人も多かったね。 ・四万十川を守るための取り組みをしている人も少なかったよ。 	C③—ア
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 四万十川を守るために自分たちにできることをしよう。(25時間) </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○四万十川の保全を行うために、水質が悪くなる原因を考え、自分たちにできることを考える。 ○「四万十川を守る」という意識を多くの人にもってもらうためには、どのような方法が有効か考える。(51/70 本時) ○四万十川の保全に向けて、自分たちが学習したことを整理し、たくさんの人に伝えるための計画を立て、練習する。 ○地域の人や観光客に向けて自分たちの学習したことを発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質が悪くなることと自分たちの生活には何か関係はないだろうか。 ・食器を洗ったり、洗濯した後の水はようになるだろう。 ・河原にたくさんのゴミが落ちているのを見たことがある。 ・水をきれいにする生き物も少なくなっているんじゃないかな。 ・自分たちだけが気を付けてもきれいになるとは思わないな。地域の人やたくさんの人にも協力してもらわないと・・・。 ・四万十川の魅力が伝わらないと、川を守ろうと言う気持ちにならないね。 ・分かりやすく伝えるためにはどうすればいいかな。 ・自分たちの住む町の宝物だから、いつまでも大切に守り続けたいといけない。 ・自分たちが大人になっても自慢できる魅力ある四万十川を残したい。 	C①—ア A②—イ C③—イ B③—イ C②—ア C③—イ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 四万十川の学習を振り返り、郷土に対する思いを発表しよう。(23時間) </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を振り返り、郷土に対する思いを発表するスピーチ大会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生で学習したトンボ王国や、四万十川など自分たちの住む地域には素晴らしいものがたくさんあるのでいつまでも守り続けたい。 ・具同のよさをもっともっと知って、たくさんの人に具同に来てもらいたいな。 	

5 本時の学習 (51/70)

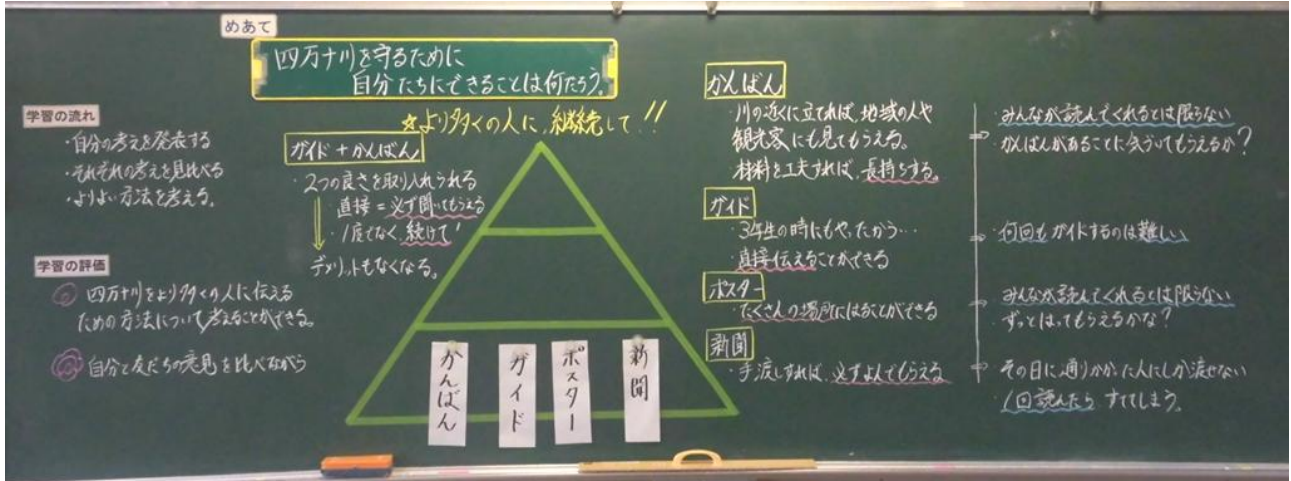
(1) 本時の目標

四万十川をきれいに保つために、四万十川の現状を多くの人に発信する方法について、理由や根拠を示しながら話し合い、それぞれ意見を比較することを通してよりよい方法を見出すことができる。

学習活動	子供の意識の流れ	教師の支援及び 留意点 (○)・評価 (◆)
<p>1、本時のめあてを確認する。</p> <p>2、「たくさんの人」「継続して」という言葉をキーワードとして方法を話し合う。</p> <p>3、それぞれの方法を比較し、良さを合わせる方法についても考える。</p> <p>4、話し合ったことをもとにどの方法を選ぶべきかを話し合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>四万十川をきれいに保つために自分達にできることは何だろうか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>「たくさんの人に伝える」ということ、「継続的に伝える」ということが大切だね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>新聞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接渡すことができるから必ず読んでもらえる。 ・渡す手間もかかるし、1回読んだらもう読まない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ポスター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん場所に貼れば、多くの人に見てもらえる。 ・ずっと貼ってもらうことができるかな。 ・みんなが読んでくれるとは限らない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>看板</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板を川の近くに立てると、地域の人にも観光客にも見ってもらえる。 ・丈夫に作れば長持ちするね。 ・みんなが読んでくれるかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時にやったようにガイドをして直接伝えたらいい。 ・場所が決まっていないから大変そうだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞とガイドは人と直接かかわることができるから、必ず伝えることができる。 ・ポスターと看板は似ているけど、場所や掲示の仕方に違いがあるね。 ・看板とガイドを組み合わせることはできないかな。 ・ガイドは継続することは難しいけど、看板はそのあとにも残るから、通りかかった人にいつでも何度でも見ってもらえる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「直接人と接する」「継続して」「たくさんの人」という意見がそれぞれの考えの中にはあるね。 ・しかし、どれか一つの方法ではこれらを満たすことはできないから、「作った看板を使いながらガイドをする」方が伝わるね。 </div>	<p>○ピラミッドチャートの中で、短冊に書いた意見を操作し、動きを見せることで話し合いが活発になるようにする。</p> <p>○それぞれの方法に対しての意見を板書する際には、メリット、デメリットが分かるよう整理するとともに、発言の多い事実については、アンダーライン等で協調して表すようにする。</p> <p>○グループで話し合う時間を確保し、今までに出た友だちの意見を参考にしながらよりよい方法について考える。</p> <p>◆四万十川を多くの人に効果的に発信する方法について話し合い、これまでの経験や友だちから出た意見を根拠としながら、最善の方法を選んでいく。(発言・振り返り)</p>

5、まとめ	ガイドと看板を組み合わせで地域の人に伝える。	
-------	------------------------	--

板書計画



【論点】 思考ツール（ピラミッドチャート）を用いることで、対話的な学びになり、課題解決につながっていたか？